

2010年度

科目名	基礎ゼミⅡ		
担当教員	横田 隆志		
配当	日文2	コード	34080
開期	後期	講時	水曜日4限
		単位数	2
授業テーマ	『徒然草』を読む		
目的と概要	『徒然草』は日本の中世文学を代表する作品のひとつです。『徒然草』は、中世という時代の産物である一方、他の文学作品にない独特の魅力をはなっています。この授業では『徒然草』を取り上げて、その世界にふれるとともに、古典文学作品を読むときの基礎的な方法について学んでいきます。		
成績評価法	平常点(40%)・研究発表(40%)・レポート(20%)		
テキスト	プリントを配布します。		
参考書	徒然草(岩波文庫)		
履修に当たっての注意・助言			
講義計画			
<p>(1) ガイダンスとして『徒然草』の成立や内容について学びます。『徒然草』は中学・高校の古典教材としてすでに取り上げられていると思いますが、本書は約二四〇段で構成されており、その全体像を知る機会は少なかったのではないかと考えられます。授業では、『徒然草』をめぐる基礎的かつ重要な事項についてまず解説します。</p> <p>(2) 基礎的な知識をつけた上で、一人ひとりが好きな章段を選び、語釈・現代語訳等の作業を行います。その上で、その章段の内容に関わる問題提起をした上で、発表してもらいます。問題提起は、自分で自由に設定してください。選んだ章段からうかがえる兼好の人柄でもいいですし、内容に出てくる人名・地名・書名・和歌などに関わる考証でもかまいません。兼好は歌人でもありましたので、歌語に関わる語彙史的なアプローチでもけっこうです。これらの作業を通じ、『徒然草』の世界にふれるとともに、古典文学作品を読むときの基礎的な方法について学んでいきます。</p> <p>(3) 自分や他の学生の発表を通じて、『徒然草』の内容について得た知見を最後にレポートとして提出してもらいます。</p> <p>第1回 『徒然草』イントロダクション1……吉田兼好という人物と『徒然草』 第2回 『徒然草』イントロダクション2……『徒然草』を読む「技術」について 第3回 『徒然草』イントロダクション3……『徒然草』の享受史および研究史 第4-14回 学生による『徒然草』発表 第15回 まとめ ※上記の発表スケジュールは受講者数によって変更する場合があります。</p>			